

2024年1月17日
株式会社SVPジャパン

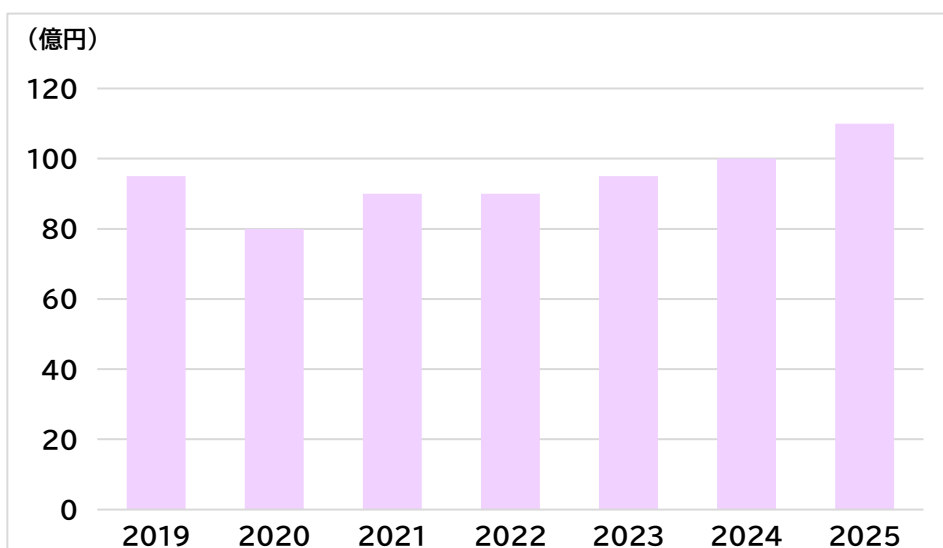
SVP注目市場分析 「植物工場」を公開

～天候などに左右されることなく、安定的に生産できる次世代農法～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「植物工場-国内市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■ 植物工場の国内市場



植物工場の市場規模（マーケットシェアを含む）は、植物工場の建設を発注者から直接受注する元請け企業の売上をベースに推定した。2022年の市場規模は、植物工場の設備一式の設計・調達・施工（プラントエンジニアリング）の売上として、約90億円であったと推定される。

2010年代末に植物工場の新設が増加し、2018～19年にかけて市場が好調に拡大したが、2020年にコロナ禍で市場が大幅に縮小した。2021年には、企業の設備投資が上向き、植物工場の市場も拡大に転じたが、2022年は、電気料金の高騰などの影響で前年から横ばいの推移になったと推定される。しかし、植物工場の事業性評価の高まりから、新規事業としての引き合いは増加傾向にある。

■ 植物工場の市場概況

植物工場の建設では、植物工場の関連機器を主力製品とするメーカーの他、産業機器の商社、建設会社などが元請けとなっている。

植物工場を建設するために必要な費用は、規模に応じて数千万円～数億円の規模とされている。さらに投資額が数十億円の大型案件もみられるようになっている。こうした大型案件の獲得の動向により、各年のマーケットシェアは変動が大きい。

2022年の売上としては、RYODEN、大和ハウス工業/三協立山、三菱ケミカルアクア・ソリューションズが上位シェアを占めたと推定される。また、近年では大規模な工場を中心に、播種、苗の移植、搬送などの工程を自動化する機器の導入も進んでいる。日本では、農業従事者の高齢化や人手不足が大きな問題となっており、生産の向上や省人化を図る手段としても植物工場の建設が増加していくと予測される。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造

■ 本レポートの購読について

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。
ご希望の場合は、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

お問い合わせは、[こちらをクリック](#)



資料請求

お問い合わせ

SVP会員の方は、[こちらをクリック](#)



会員サイト

■ 次回のテーマ

2月のテーマは、「昆虫食」と「植物肉」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール・・・毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com